

現代中国における女性の階層帰属意識に 関する考察

ー2021 年 CGSS データに基づく実証分析を中心にー

YE Hanyu

本研究は、現代中国における女性の階層帰属意識の現状を明らかにし、そこに影響を及ぼす要因を実証的に分析することを目的とする。

改革開放以降、中国社会は急速な経済成長とともに、社会構造に大きな変化をもたらしてきた。計画経済から市場経済への移行、教育制度の発展、労働市場の拡大などが相まって、個人の社会的地位や階層帰属意識に大きな影響を与えている。とりわけ女性は、高等教育機関への進学率や就業率の上昇を通じ、徐々に社会進出するようになった。しかし、こうした社会進出が進む一方で、「男は外、女は内」といった伝統的な性別役割意識は依然として根強く存在している。女性は家庭内での育児や介護、家事といった役割を担っており、社会的進出と家庭内負担の二重構造が女性の階層帰属意識に複雑な影響を及ぼしている。このような状況において、女性が自らの社会階層をどのように認識し、どのような要因がその意識の形成に影響を与えているのかを明らかにするのは、ジェンダー平等の推進や社会的不平等を理解する重要な課題である。

階層帰属意識とは、個人が自らを社会のどの階層に属していると認識しているかを示す主観的な意識である。これは客観的な社会的地位とは異なるが、社会的不平等やアイデンティティ形成に密接に関わる概念である。しかし、これまでの先行研究では、教育や収入といった社会経済的要因が階層帰属意識に影響することが指摘されている。一方で、政治的身分や職業といった属性がどのように意識に影響を及ぼすかについては、十分な分析がなされてこなかった。また、女性の階層帰属意識を既婚、未婚といった結婚の有無に応じて比較し、それぞれに異なる要因が働く可能性を検討する研究も限定的である。そこで本研究では、階層帰属意識に影響を与える要因として、教育、個人年収、政治的身分、職業、出身階層、性別役割意識、配偶者の職業の7つの変数を設定し、これらがどのように作用するかを未婚者と既婚者に分

けて分析した。分析には、2021年度の中国総合社会調査データを使用し、18～55歳の就業中の中国人女性1475名を対象とした。

分析の結果、まず全体として、女性の階層帰属意識は「中間層」に最も多く分布し、次いで「下層」、「上層」の順となっていた。

また、影響要因については、未婚女性では14歳時点での父親の職業、すなわち出身階層が最も強い影響要因であった。父親が安定した職に就いている場合、その娘である未婚女性はより高い社会階層に自己を位置づける傾向が顕著に見られた。また、教育水準も階層意識に強く影響しており、大学や大学院を卒業している女性ほど階層帰属意識が高い傾向が示された。加えて、収入および政治的身分も、階層帰属意識の形成に一定の正の影響を与えていた。特に収入については、経済的安定が社会的自己評価に直結している様子が伺える。一方、既婚女性では、最も大きな影響を与えていたのは教育と個人年収であり、自らの能力や社会的地位への評価が階層帰属意識の形成に強く関連していた。注目すべき点として、既婚女性においては配偶者の職業が階層帰属意識に対して有意な影響を持たなかったという結果が得られた。これは、既婚女性が結婚後も自身の社会的努力や個人的資源に基づいて自己の階層を認識していることを示唆しており、配偶者の地位に依存して自己評価を行っているという「借用モデル」からの一定の乖離を示している。

さらに、本研究では性別役割意識についても検討したが、未婚女性・既婚女性いずれにおいても、階層帰属意識に対する有意な影響は確認されなかった。この結果は、女性たちが伝統的価値観を持つか否かに関わらず、自身の階層帰属認識を主に客観的な要因(学歴、収入、出身階層など)に基づいて形成していることを示している。すなわち、性別役割意識は主観的な階層認識には直接的な影響を与えていないことが示された。最後に、職業の影響も無視できないことが確認された。農業従事者や非熟練マニュアル職に就いている未婚女性・既婚女性のいずれにおいても、階層帰属意識が低い傾向が見られた。これは、職業が女性の階層帰属意識の形成において一定の影響を及ぼしていることを示している。

以上の結果から、階層帰属意識の形成には結婚の有無によって異なる要因が作用していることが明らかとなった。未婚女性は出身家庭、すなわち家庭の経済的・職業的背景の影響を強く受ける傾向にある。一方で、既婚女性は学歴や収入といった自らの現在の社会的能力に基づいて自己評価を行う傾向が強い。また、従来想定されていた「配偶者の地位が女性の階層帰属意識を規定する」というモデルが、現在の中国の既婚女性には必ずしも当てはまらないことが確認された点は、今後のジェンダー研究や階層研究にとって示唆的である。

女性の階層帰属意識の背後には、出身家庭の影響、教育や職業の選択、性別役割意識など、複数の要因が交差している。本研究は、女性の階層帰属意識の違いとその形成要因を明

確に比較分析した点で、現代中国におけるジェンダー不平等の構造や女性の社会的位置づけを理解する一助となることが期待される。